



石神井中だより

練馬区立石神井中学校

校長 山田 美鈴

令和8年1月9日

第9号



日本の伝統文化継承

校長 山田 美鈴

新年あけましておめでとうございます。本年が皆様にとって素晴らしい年となりますよう心より祈念いたします。

さて今年は干支（えと）の7番目となる午（うま）年、方位でいうと南の方角（子午線）、時刻は12時（正午）となります。午年の言い伝えには「活気があり、新しいものが生まれる力強さ」があり、特に丙午（ひのえうま）の年は「情熱や行動力、変化を象徴する」とされ、物事を大きく広げていくエネルギーをもつとされているようです。

特に競走馬として育てられている馬の闊歩する姿は、美しくまた逞しさがあり、羨ましささえ感じます。そんな馬にあやかって自分も情熱や行動力を閉ざすことなく、今年は様々なことに挑戦していこうと決意しました。

日本の年末年始には、よき伝統文化を継承するための大切な行事があります。食文化も同様です。大晦日に食べる年越しそばは細く長いそばのように長寿を願うことや、切れやすいそばのように1年間の厄災を断ち切る意味が込められています。(私個人としては昨年末何回もそばを食べてしまったので、かえって厄を呼んでしまわないか?!)と少々心配しています・・・。)

正月に食べるおせち料理には一つ一つに意味があるので、そういう日本文化を受け継いでいくためにもそれぞれの意味を感じながら味わっていただくことができたでしょうか。

そしてお雑煮。これは地域によってかなり異なるようです。義理の父母が生存していた頃はかならず長野の田舎で正月を迎え、私が田舎ならではの雑煮を作っていました。糸昆布を主とした出汁を煮込み、畠で収穫した野菜（ごぼう、人参、長葱、大根など）すべて入れ、もち米からついた雑煮用の餅を入れて畠の作物に感謝を込めていただきます。東京でも同様に作ってはみますが、どうしても田舎で採れた野菜の風味をうまく出すことができません。人間だけでなく生きるものすべては環境によって育ち方が異なるということを証明してくれているようです。

また日本の正月遊びにも縁起にまつわる言い伝えがあります。元旦に近くの公園でランニングした際、凧揚げをしている親子を見かけました。風を利用して空高く舞い上がる凧のように、悠々と羽ばたく様（さま）を凧に込めて力いっぱい糸を引きます。そして最近はあまり見かけなくなった駒回し。物事が円滑に回るようにとの願いを込めて、昔から駒回しが年初めの遊びにふさわしいとされてきました。昔は比較的男子が駒回して遊ぶ中、女子は羽根つきという光景がありました。羽子板を使って遊ぶ羽根つき。打ち返すということから「厄除け祈願」や「無病息災のお守り」の意味をもっていて、たとえ羽根つきで遊ばなくても、縁起を担いで高級な羽子板を家に飾ることは、昔は当たり前の風習でした。

今や海外から日本を訪れてくる方々の方が日本文化に詳しい状況もありますが、日本を愛するものとして、新年を迎えた喜びとともに日本文化の良さを改めて感じていきたいものです。

さて石神井中学校は令和9年度に開校80周年を迎えます。この機会に石神井中を象徴するマスコットキャラクターのデザインを募集しております。今後開校90年、100年へと継承していかれるよう生徒の力を借りて決定してまいります。さらなる石神井中の発展を祈念して・・・。